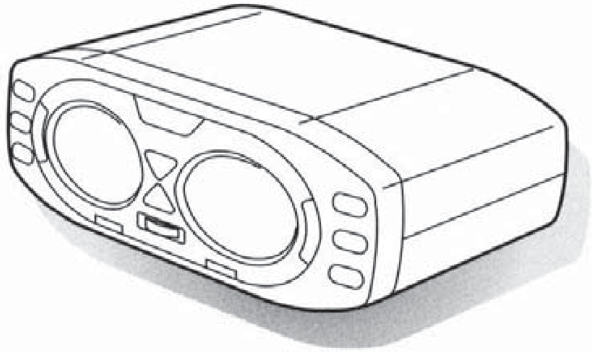
GPS　350.1MHz　Xバンド　Kバンド
カーロケ　デジタル無線 NEW　ヘリテレ無線 NEW

GP-767CL

取扱説明書/保証書

7バンド受信セパレートGPSレーダー



この度はベストワンシリーズをお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。本書には取付け及び操作手順が説明されております。正しくご使用いただく為に本書をよくお読みのうえ、ご使用ください。尚、読み終えた後、いつでも見られるよう大切に保管してください。

目　次	ページ
ご使用上の注意	2
GPS機能について	3
各部の名称	4～7
取付け方法	8～13
機能と操作方法	14～27
警報方法	28～31
取締りの種類と方法	32～33
故障かな？と思ったら／製品仕様	34

BEST ONE

COMTEC

ご使用上の注意

ご使用の前に、この「ご使用上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、注意事項には危害や損害の大きさを明確にする為に誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」・「注意」の2つに分けています。

⚠ **警告**：警告を無視した取扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う原因となります。

⚠ **注意**：注意を無視した取扱いをすると、使用者が障害や物的損害を被る可能性があります。

⚠ 警告

本製品を分解・改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。

運転者は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。同乗者の方が操作を行ってください。

本製品は電子部品を使用した精密機器ですので衝撃をあたえないでください。故障の原因となります。

本製品は、運転や視界の妨げにならない場所に取付けてください。又、自動車の機能（エアバック等）の妨げにならない場所に取付けてください。事故や怪我の原因となります。

本製品が万一破損・故障した場合は、すぐに使用を中止して販売店へ点検・修理をご依頼してください。そのまま使用すると火災・感電・車の故障の原因となります。

本製品を水につけたり、水をかけたりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

本製品を医療機器の近くで使用しないでください。電波により医療機器に影響を与える恐れがあります。

⚠ 注意

万一、製品本体にロット番号シールがない場合は、商品をご使用前に弊社へご連絡ください。

保証書には必ず「販売店名」「お買い上げ日」が記入されているか、記載の内容をご確認頂き、大切に保管してください。

本製品はDC12V車専用です。（DC24V車へのお取付けはできません）

本製品の仕様及外観、付属品内容は、改良の為予告なく変更することがあります。ご了承ください。

本製品近辺に他のGPS機能を持つ製品を設置しないください。誤作動を起こす可能性があります。

本製品は衛星からの電波を受信して現在位置・移動方向・移動速度を算出し、あらかじめ登録してあるオービス・Nシステムのデーター（座標データー等）とを比較演算し、オービス・Nシステムに接近すると警報を行います。GPS電波を受信できない状況下では、GPS機能での警報を行いません。

本製品のGPS機能は予め登録されたオービス・Nシステムと、お客さまが任意で登録した位置のみ有効です。

受信場所によりGPS衛星の電波が受信しにくい場所、受信できない場所があります。
（トンネル内・屋内・高架下・高層ビルに囲まれた場所・高い樹木に囲まれた場所等）

GPS衛星は米国国防総省により管理されており、国防当局の都合で故意に精度が変更されることがあります。又、受信状況によっては、約50m程度の誤差が生じる場合があります。

本製品のレーダー受信機能はXバンド（10.525GHz）Kバンド（24.200GHz）のみ有効です。

本製品の受信機能はカーロケーターシステム（407MHz帯）取締り連絡無線（350.1KHz）ヘリテレ無線（340MHz帯）デジタル無線（159MHz~160MHz帯）のみ有効です。

一部のナビゲーションシステム（GPS）で漏れ電波が取締り機と同じ周波数の場合、本製品レーダー機能が受信することがあります。

取締り機と同一周波数のマイクロ波を使用した機器（下記）周辺で、本製品レーダー機能が受信する事がありますが、誤作動ではありません。あらかじめご了承ください。
（自動ドア・防犯センサー・車輌通過計測器・気象用レーダーの一部・航空用レーダーの一部）

一部、断熱ガラス（金属コーティング・金属粉入り等）、ミラー式フィルム装着車の場合GPSアンテナを車内に設置した場合、受信できない場合があります。車外への設置をお薦めします。

本製品お取付けての違法行為（速度違反等）に関しては、製品動作の有無に関わらず弊社では一切の責任を負いかねます。

GPS機能について

●GPSとは
「Global Positioning System」アメリカ国防総省の衛星を利用し、地上での現在位置を計測するシステムです。

●GPSレシーバーの警報システム
衛星からの電波を受信して現在位置・移動方向・移動速度を算出し、あらかじめ登録してあるオービス・Nシステムのデーター（座標データー等）とを比較演算し、オービス・Nシステムに接近すると警報を行います。又、本製品内蔵のメモリー（記憶装置）に任意の警報ポイントを100件登録する事が可能です（ユーザーメモリー）。

●衛星受信開始時間
GPSレシーバーの電源ONから衛星受信を行う迄の時間。

前回、電源OFFしてからの時間	衛星受信迄の時間
~5時間	~10秒程度
~数日間	~1分程度
ご購入後又は、1ヶ月程度以上	~5分程度

※参考数値です。実際の使用される場所によっては時間が変わります。

●衛星受信復帰時間
走行中、トンネル・高架下・屋内等で一時的にGPS衛星が受信できない場所から受信できる場所へ移動した時、再受信する迄の時間。
（高架下等にオービスがある場合は衛星受信ができず、警報が行えない場合があります。注意してください。）

衛星受信できない状態	衛星受信迄の復帰時間
10秒以下	2秒程度
10秒~60秒	5秒程度
60秒以上	10秒以上

※参考数値です。実際の使用される場所によっては時間が変わります。

●GPS測定誤差について
本製品の測位計測機能は衛星の受信状態等により、約50m程度の測定誤差が出る場合があります。

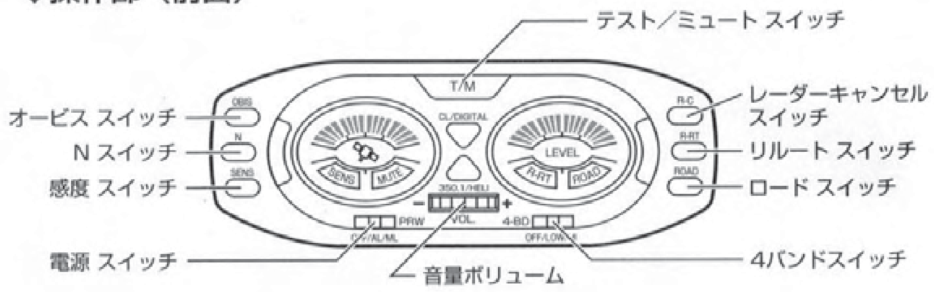
●GPS衛星受信と車載テレビチューナー
車載テレビ等でUHF56チャンネルを受信（設定）しているとGPS衛星を受信できない事があります。そのような場合、車載テレビ等のチューナー部からGPS衛星の受信に影響のない箇所へGPSアンテナを取付けてください。

●登録データーについて
データー作成年度・バージョンはパッケージ及び、本製品に記載しています。
（注）今現在でも新たにオービス・Nシステムが増設されており、又、調査箇所以外にもオービス・Nシステムが設置されている可能性があります。お車を運転するときは安全の為、必ず法定速度内で走行してください。

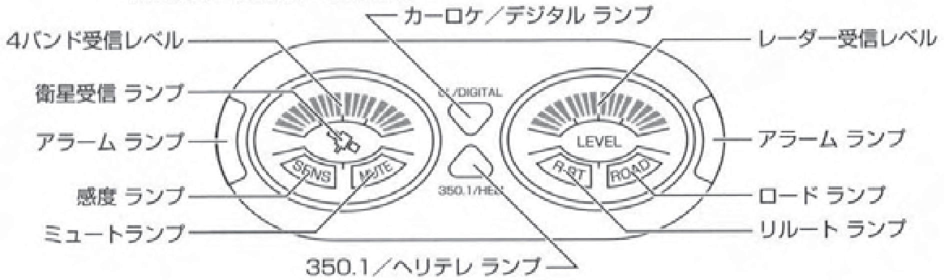
●登録データー最新バージョンへの書き換え
・本製品の登録データーは最新バージョンへの書き換えが可能です（有料）。
・最新バージョンデーターのリリースについては、販売店店頭・コムテックホームページにてお知らせ致します。（http://www.e-comtec.co.jp）

各部の名称（製品本体）

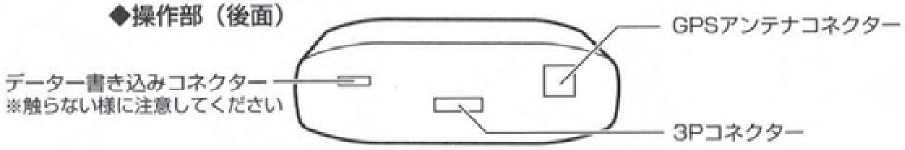
◆操作部（前面）



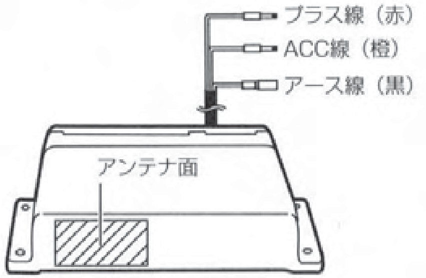
◆操作部（表示部：拡大図）



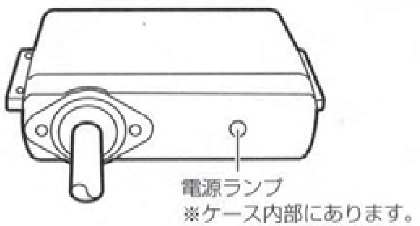
◆操作部（後面）



◆受信部（前面）



◆受信部（後面）



※取扱説明書内のイラストと実際の製品は一部形状等が異なる場合があります。

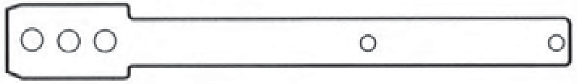
各部の名称（製品本体）

（　）内の数字は、個数を表します。

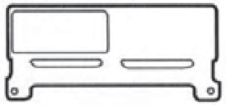
◆GPSアンテナ（1）

◆GPSアンテナ底板（1）

◆受信部ステー（1）

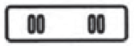


◆反射板（1）



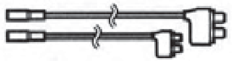
◆取付ビス（3）

◆操作部ステー（1）

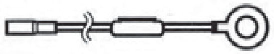


◆平型ヒューズ付きコード

（大×1　小×1）



◆受信部プラス延長線（赤×1）

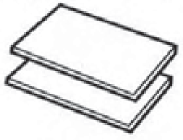


◆受信部アース延長線（黒×1）

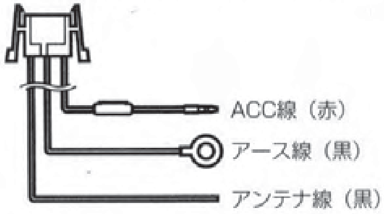
◆通信コード（橙×1）

※有線配線時に使用します。

◆両面テープ（2）



◆操作部配線ハーネス（1）



◆エレクトロタップ（2）

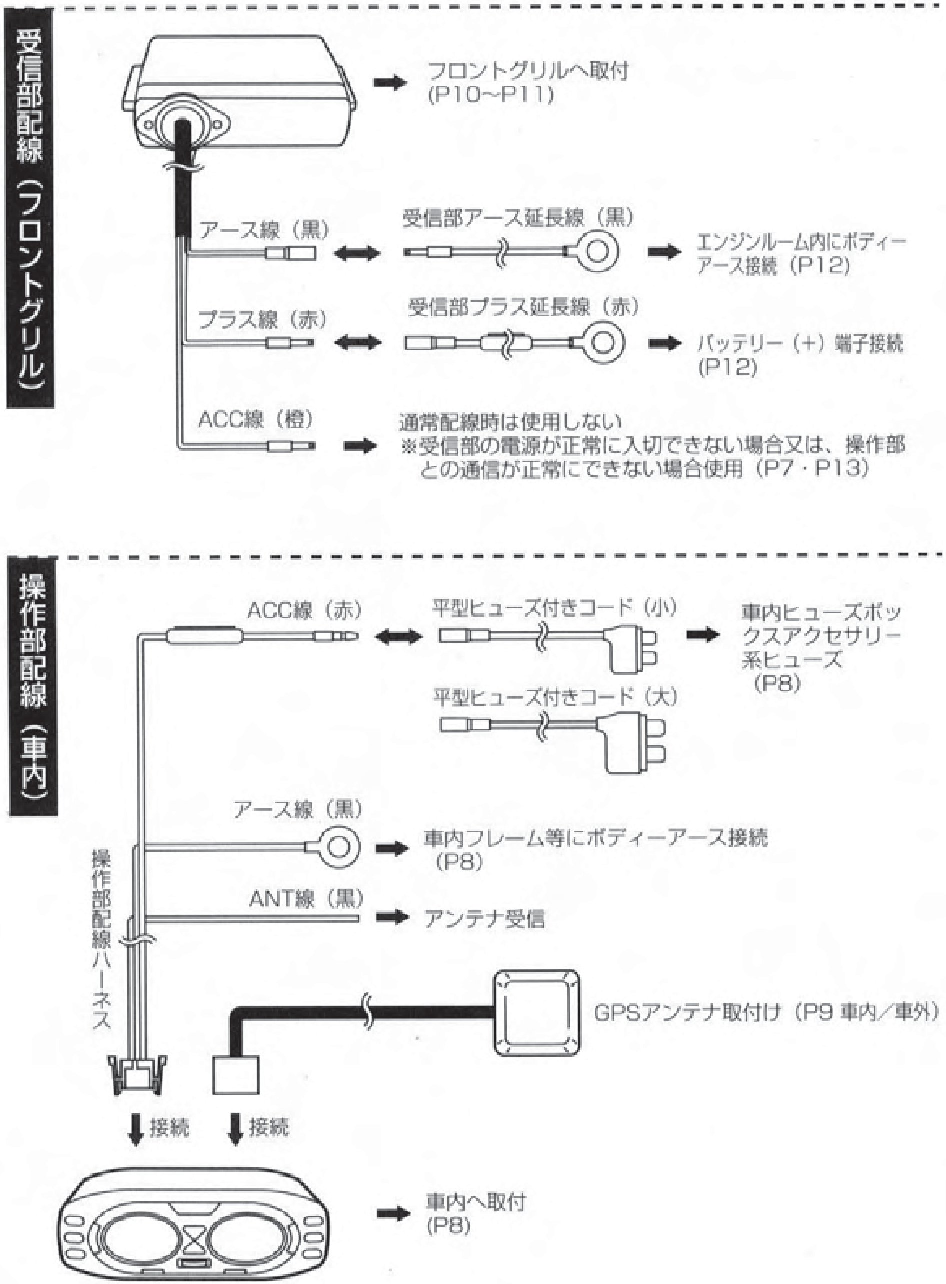
◆コードクランプ（5）

◆インシュロック（大×2）（小×6）

※取扱説明書内のイラストと実際の製品は一部形状等が異なる場合があります。

各部の名称（製品本体）

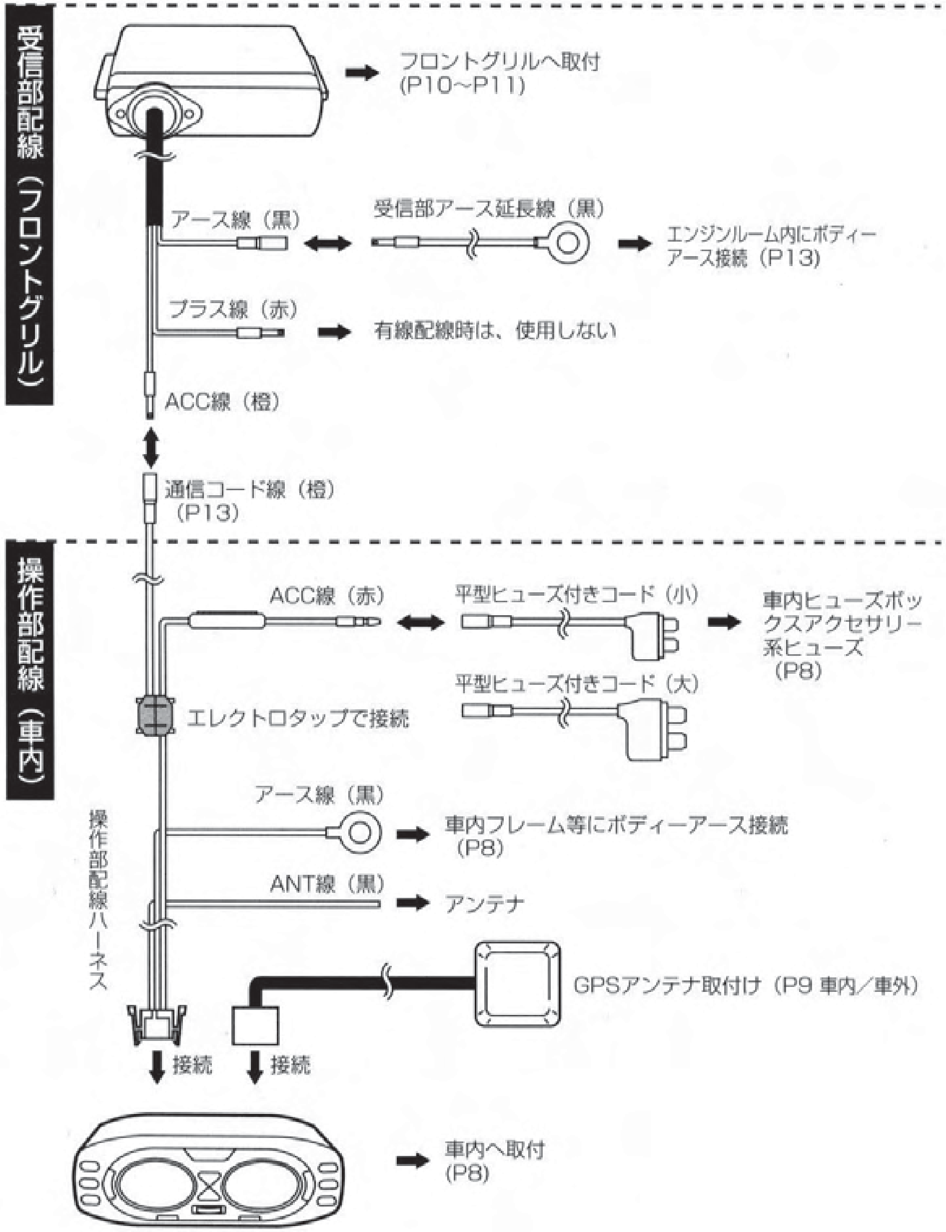
通常配線



各部の名称（製品本体）

有線配線

※受信部の電源が正常に入切できない場合又は、操作部との通信が正常にできない場合に配線。



取付け方法（操作部の取付け）

注意：操作部の取り付け・配線は、運転の妨げにならず、車両の機能（ブレーキ・ハンドル・エアバック等）に影響の無い場所へ行ってください。

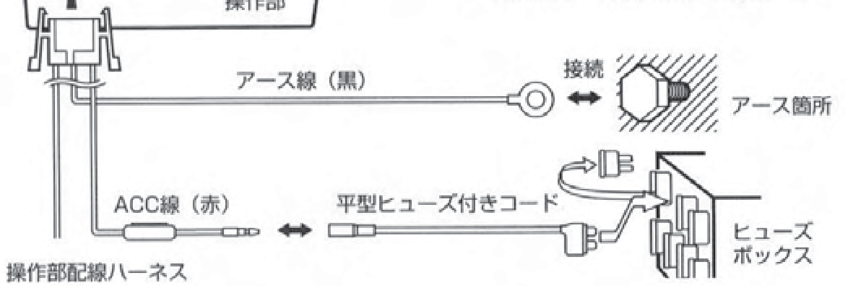
※・付属の平型ヒューズ付きコードは、大・小の2種類あります。車両のヒューズサイズに合わせてご使用ください。
・車種によっては、平型ヒューズ付きコードが使用できない場合があります。そのような場合平型ヒューズ部分をカットし、付属のエレクトロタップで車内のアクセサリー電源へ配線してください。

1 操作部配線ハーネスのアース端子を、塗装されていないボディまたはフレームのビスに確実に共締します。
注・アース端子とアース箇所の間に樹脂・塗装等があると、確実なアースがとれません。

2 操作部配線ハーネスのACC線（赤）に、付属の平型ヒューズ付きコードを接続し、車両のアクセサリー系ヒューズ（イグニションキーOFF時：0V ON又は、ACC時：12V）の同じ容量のヒューズと差し換えます。
注・同じ容量のヒューズが車両に無い場合、市販されている同じ容量の平型ヒューズ付きコード等を使用してください。

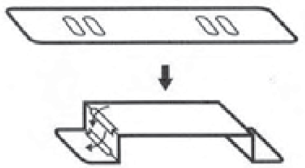
3 操作部裏面のコネクターに、操作部配線ハーネスのコネクターを差し込みます。

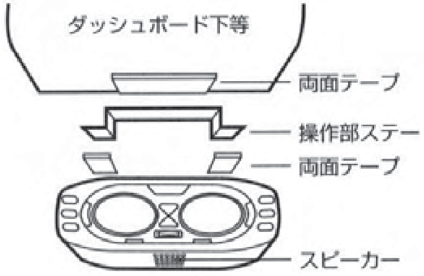
※ヒューズ切れ等の場合は、同一容量の市販ヒューズと交換してください。



4 車内で運転の妨げにならず、ヒーターの熱風を直に受けない場所へ、付属の操作部ステーを図のように加工後、両面テープを適当なサイズにカットし、ダッシュボード下等に確実に取り付けてください。
注・スピーカーをふさぐような取り付けを行うと、警告音等が聞こえなくなる場合があります。

図（操作部ステーの加工）

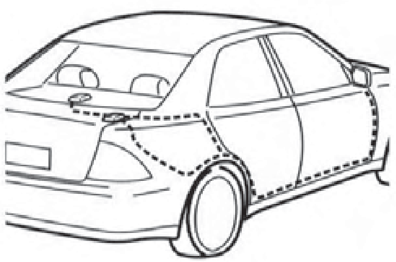




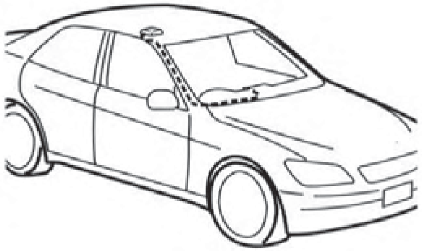
取付け方法（GPSアンテナの取付け）

GPSアンテナは下図のようにGPSアンテナコードを引き回し、アンテナ底面の磁石で、屋根、トランク等に固定します。できるだけGPS衛星からの信号を受けやすい場所に水平に取付けてください。断熱ガラス車の場合、ダッシュボード上に取付けるとGPS衛星受信ができず、正常に働かない可能性があります。

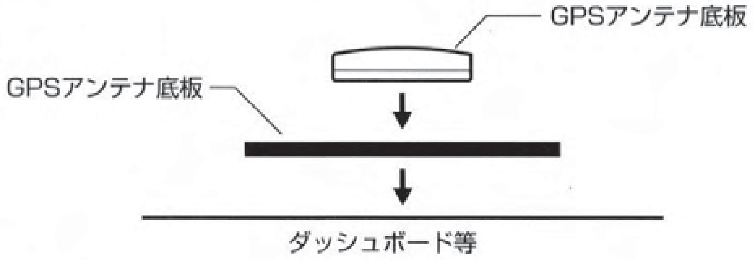
取付け例（トランク・リヤトレイ））



取付け例（屋根）



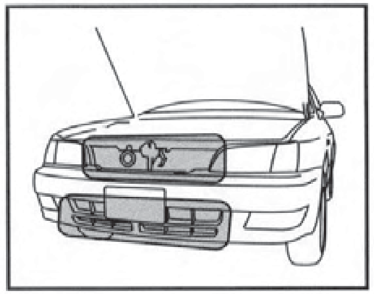
GPSアンテナをリヤトレイ、ダッシュボード等の非金属部に取付ける場合、付属のGPSアンテナ底板を使用して取付けてください。



GPSアンテナを平らな面にのせ、アンテナの磁石の力で固定します。

注意
・GPSアンテナに付いている磁石を時計や磁気カード等に近付けないでください。
・GPSアンテナは地面や砂埃の多い場所には置かないでください。
・GPSアンテナに雪が積もると受信できません。雪を取り除いてください。
・洗車等の時は取外してください。
・GPSアンテナコードを車外でたるませたままにしないでください。
・GPSアンテナコードはテレビ・ラジオのアンテナコードから離してください。
・GPSアンテナを取外す時、GPSアンテナコードを引っ張らないでください。
・配線時、ドア、トランクのヒンジ等車の稼動部と干渉しないように注意してください。

取付け方法（GPSアンテナの取付け）



注意

- 取り付け作業時は、必ずエンジンを停止し、冷えた状態で行ってください。
- 受信部の取り付け位置は左図グレー部分で、電波が車両の金属等によって遮断されない箇所へ取り付けてください。
- 受信部を垂直に取り付ける場合は、必ず反射板を使用してください。
- 車両の進行方向に受信部のアンテナ面（垂直に取り付けの場合は反射板）を向けて取り付けてください。

警告

- 受信部の取り付けは、ボンネット開閉の影響や車両の機構部に干渉の無い事を確認してから行ってください。

路面に対して平行に取り付ける場合。

1 付属の受信部取り付けステーに受信部を取り付けてください。
※取り付けステーは受信部に対して縦横どちらにも取り付けできます。（図1.2参照）

図1

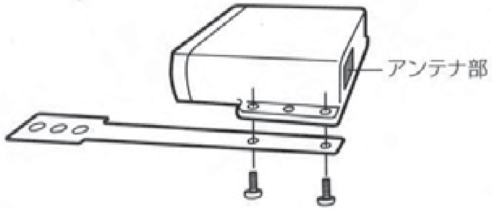
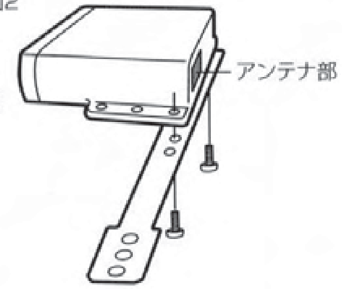
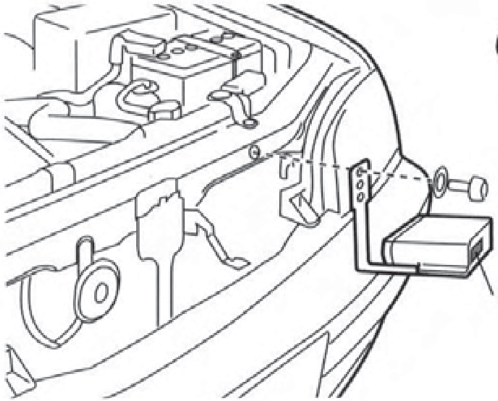


図2





2 受信部が路面に対して平行になるように受信部取り付けステーを調整して、アンテナ部を進行方向に向けて、車両のビス等に確実に供締めします。
※アンテナ面前方に、金属等の電波を遮断するものが無い所に取り付けてください。

取付け方法（受信部の取付け）

路面に対して垂直に取り付ける場合。

1 付属の受信部取り付けステーに反射板と受信部を取り付けます。
※・受信部取り付けステーは受信部に対して縦横どちらにも取り付けできます。（図1.2参照）
・受信部のアンテナ部を必ず上向きにして取り付けてください。

図1

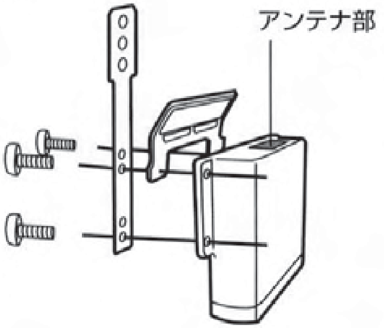
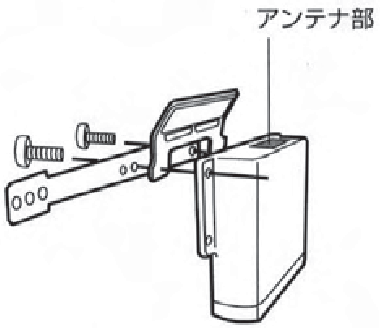
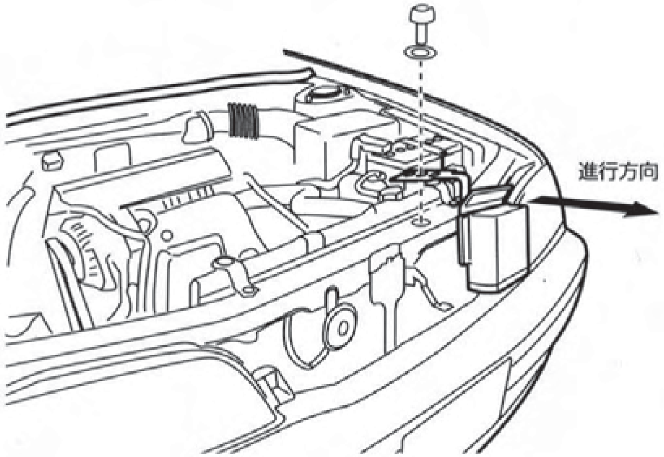


図2



2 受信部が路面に対して垂直になるように受信部取り付けステーを調整して反射板を進行方向に向けて、車両のビス等に確実に供締めします。
※アンテナ面前方に、金属等電波を遮断すものが無い用に取り付けてください。



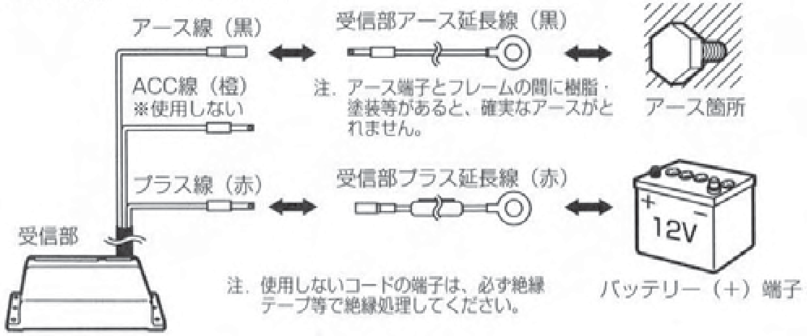
取付け方法（受信部の配線と確認／通常配線）

注意

・配線等を行う際、車両の金属部・可動部（ファン・ファンベルト等）や、高温になる部分への接触は避けてください。
・受信部の配線を行う際、線を束ねたりしないでください。本製品の誤作動の原因となります。

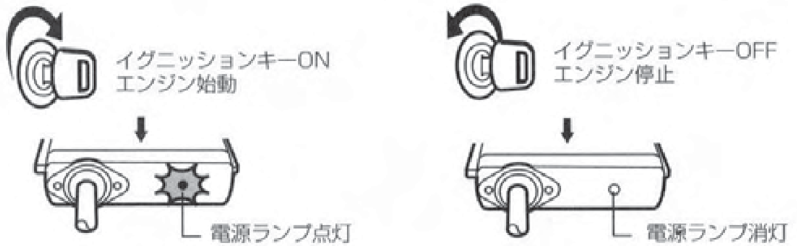
1 受信部アース線（黒）を付属の受信部アース延長線（黒）と接続し車両の塗装されていないボディまたは、フレームのビスに確実に共締します。

2 受信部プラス線（赤）を付属の受信部プラス延長線（赤）と接続しバッテリーのプラス端子に取り付けます。



3 イグニッションキーでエンジンを始動すると、受信部の電源ランプが点灯します。

4 イグニッションキーでエンジンを停止させ、（キーOFF）車両の電装品が全て停止した状態であれば受信部の電源ランプは消灯します。



5 エンジン停止後、数分以上経っても受信部電源ランプが消灯しない、又は操作部からテスト音がしない（操作部電源ON状態）場合は、有線配線を行ってください。（P7.P13）

6 操作部の電源をオンにし、再度イグニッションキーでエンジンを始動し、操作部に通電（電源ランプ点灯）してから約3秒間、警告音（又は、メロディー）がなります。
※受信感度をマニュアル、スーパーハイに設定した状態で行ってください。
通電後、警告音がならない場合は配線方法を確認してください。

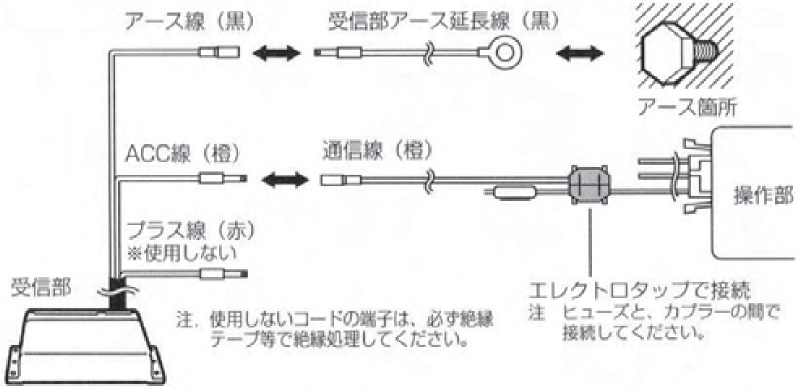
取付け方法（受信部の配線と確認／有線配線）

注意 ・有線配線は、以下の様な場合のみ行ってください。

・エンジンを停止後（キーOFF状態）、数分経っても受信部の電源ランプが消灯しない。
・操作部の電源ONの状態で、エンジンを始動しても、テスト音が出ない。

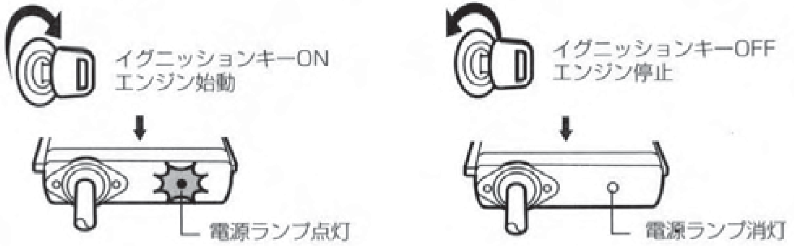
1 受信部アース線（黒）を付属の受信部アース延長線（黒）と接続し車両の塗装されていないボディまたは、フレームのビスに確実に共締します。

2 受信部ACC線（橙）を付属の通信線（橙）と接続し、操作部ACC線（赤）へ付属のエレクトロタップで接続します。

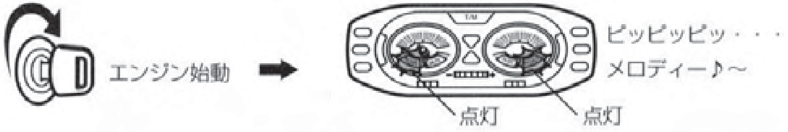


3 イグニッションキーでエンジンを始動すると、受信部の電源ランプが点灯します。

4 イグニッションキーでエンジンを停止すると、（キーOFF）受信部の電源ランプが消灯します。

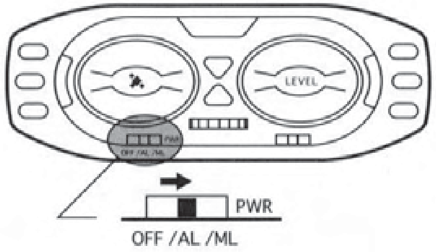


5 操作部の電源をオンにし、イグニッションキーでエンジンを始動し、操作部に通電（電源ランプ点灯）してから約3秒間、警告音（又は、メロディー）がなります。
※受信感度をマニュアル、スーパーハイに設定した状態で行ってください。
通電後、警告音がならない場合は配線方法を確認してください。



電源スイッチ

●本製品は電源スイッチと警報音選択スイッチを兼用しています。
●電源スイッチを操作する時は、他のスイッチを押さないように注意してください。
●電源ON後、数秒~数分（P3）で衛星からの電波を受信し衛星ランプが点灯します。

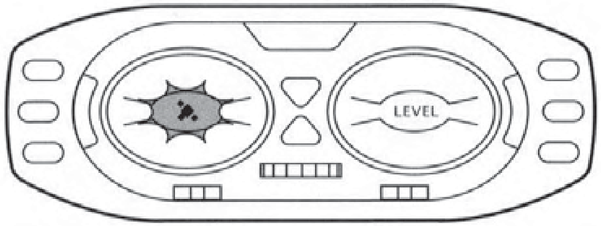


スイッチ位置	電源	警報音
OFF	オフ	――――
AL	オン	アラーム音（電子音）
ML	オン	メロディー音

※イグニッションキーがACCまたは、ONの位置で操作できます。

衛星受信ランプ

●衛星受信ランプ… GPS衛星の受信状態により下記表のように衛星ランプが点灯します。



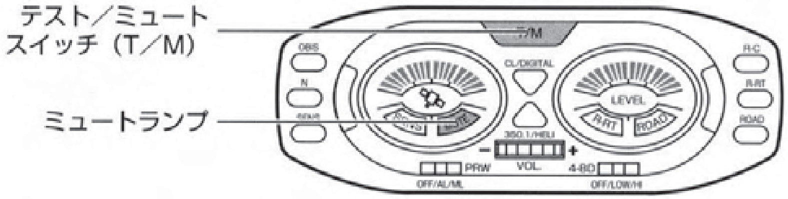
※電源ON後、最初に衛星を受信した場合は下記音声アナウンスを行います。

「ピンポーン　衛星を受信しました」

ランプ	受信状態
青点灯	GPS衛星を3機以上受信
消灯	GPS衛星を受信できていない ※本製品のGPS機能が動作しません

テスト／ミュート機能（TEST/MUTEスイッチ）

●各ランプ、アラーム音の動作確認を行うテスト機能と、取締り機の位置確認後、不要な警報音をミュート（消音）する機能。
（警）運転者は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。同乗者の方が操作を行ってください。

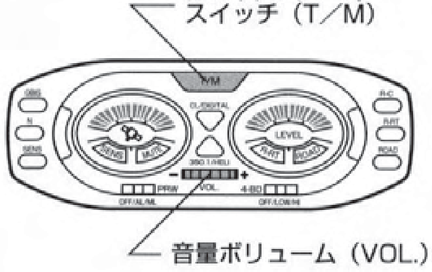


テスト機能	❶ 本製品を電源オンにします。 ❷ 警報を行っていない状態で、T／Mスイッチを押します。 ❸ 約18秒間各ランプとアラーム音がテスト動作します。 ※ テスト中に再度T／Mスイッチを押すとテスト動作が終了します。

ミュート機能	❶ 本製品が警報を行っている状態の時、T／Mスイッチを押します。 ❷ レーダー警報、カーロケ警報、350.1警報、ヘリテレ警報、デジタル警報は電波を受信している間GPS警報、N警報は対象取締り機を通過する迄ミュート（消音）します。 ※ ミュート作動中はミュートランプが赤点灯します。

警報音量の調整（VOL.）

●本製品の警報音量の調整を行います。



❶ 本製品を電源オンにします。
❷ 警報を行っていない状態で、T／Mスイッチを押します。
❸ 約18秒間各ランプとアラーム音がテスト動作します。
❹ テスト音を確認しながら、音量ボリュームで適度な音量に調整します。

機能と操作方法

LSC-i 機能

●LSC-i機能とは… ロー・スピード・キャンセル-インテリジェンスの略称で、GPS機能を使用して算出した自車の走行速度が低速の場合、警報音をキャンセル（消音）します。

（警）運転者は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。同乗者の方が操作を行ってください。

○LSC-i機能の動作速度

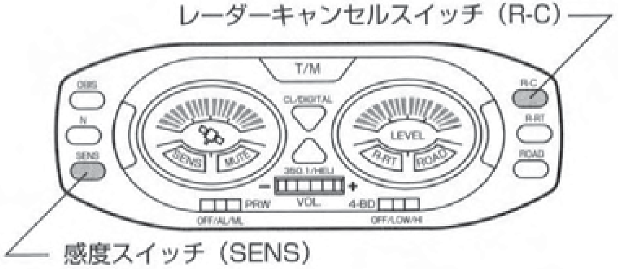
下記表の走行速度でLSC-iが動作します。

ロードセレクトモード	走行速度	ロードランプ
シティモード	20km／h以下	赤　点滅
オールモード	40km／h以下	橙　点滅
ハイウェイモード	60km／h以下	緑　点滅

○LSC-i機能の解除方法

下記操作でLSC-i機能を解除する事ができます。

※LSC-i機能を解除した場合、走行速度、ロードセレクト設定に関係なく全ての警報を行います。



❶ 本製品を電源オフにします。

❷ R-Cスイッチ、SENSスイッチの2つを同時に押したままの状態で、電源スイッチをオンします。

❸ 約1秒後「ピッ」とアラーム音が鳴ればLSC-i機能の解除完了です。

❹ 再度、LSC-i機能を設定する場合は、❶～❸の操作を行います。

機能と操作方法

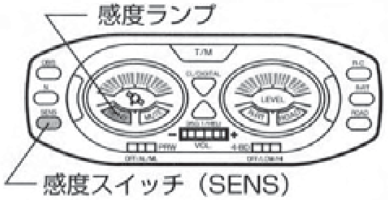
レーダー受信感度の設定

●本製品にはレーダー受信感度をLOW（ロー）、HI（ハイ）S-HI（スーパーハイ）の3段階に手動で設定するマニュアル機能と、GPS機能を使用して算出した走行速度に適した受信感度を自動設定するASC-i機能があります。

※商品出荷時はマニュアル設定・S-HI（スーパーハイ）に設定してあります。

SENSスイッチを2秒以上押す毎に（→マニュアル設定機能／ASC-i機能←）と切換わります。

○マニュアル設定機能



❶ 本製品を電源オンにします。

❷ SENSスイッチを2秒以上押し、マニュアル設定機能に切換えます。
（アラーム音：ピッピッ）

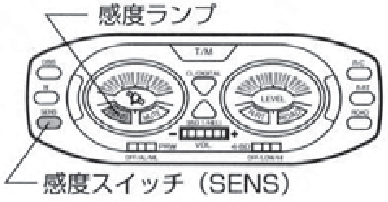
❸ SENSスイッチを押す毎に「S-HI→HI→LOW」の順に受信感度が設定されます。

下記表を参照し最適な受信感度を設定してください。

感度ランプ（SEN）	受信感度	適切な走行場所	走行状態
赤　点灯	LOW（ロー）	市街地	低速走行
橙　点灯	HI（ハイ）	郊外地	中速走行
緑　点灯	S-HI（スーパーハイ）	高速道路	高速走行

○ASC-i機能

ASC-i機能とは…オート・センシティブ・コントロール　インテリジェンスの略称でGPS機能を使用して算出した自車の走行速度にあわせて適切なレーダー受信感度を自動で設定する機能です。



❶ 本製品を電源オンにします。

❷ SENSスイッチを2秒以上押し、ASC-i機能に切換えます。
（アラーム音：ピッピッピッ）

下記表の走行速度に対応した受信感度に自動設定されます。

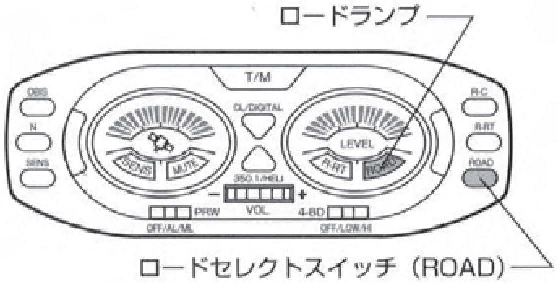
感度ランプ（SEN）	受信感度	走行速度
赤　点灯	LOW（ロー）	40km／h以下
橙　点灯	HI（ハイ）	40km／h～80km／h
緑　点灯	S-HI（スーパーハイ）	80km／h以上

ロードセレクト機能（ROAD）

●高速道路上のオービス・Nシステムのみ警報を行う「ハイウェイモード」、一般道路上のオービス・Nシステムのみ警報を行う「シティモード」、高速、一般道路両方のオービス・Nシステムの警報を行う「オールモード」を選択します。

※商品出荷時はオールモードに設定してあります。

（警）運転者は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。同乗者の方が操作を行ってください。



1. 本製品を電源オンにします。
2. ROADスイッチを押す毎に →ハイウェイ→ オール→ シティ→ の順に設定されます。

下記表を参照し、走行条件にあわせたロードモードを設定してください。

ロードモード	ロードランプ	警報を行う道路
オール	橙　点灯	一般／高速道路
シティ	赤　点灯	一般道路
ハイウェイ	緑　点灯	高速道路

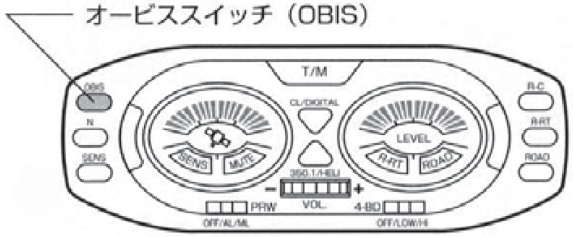
オービスポイント追加・削除／オービス警報キャンセル機能（OBISスイッチ）

●オービスポイントの追加… 本製品に未登録または、新たに設置されたオービスを任意に追加できます。
※オービス・Nシステムあわせて100件まで登録可能。

●オービスポイントの削除… 任意に追加したオービスポイントを削除します。

●オービス警報キャンセル… オービス警報音のキャンセル（消音）設定を1件単位で行います。

（警）運転者は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。同乗者の方が操作を行ってください。



オービスポイント **追加**	1. 登録地点を走行中、GPS警報を行っていない時にOBISスイッチを押します。 2. 2秒後に「オービス登録しました」とアナウンス音が出れば登録完了です。
オービスポイント **削除**	1. 登録地点を走行しGPS警報中にOBISスイッチを押したままにします。 2. 「オービス消去しました」とアナウンス音が出れば削除完了です。

オービス警報キャンセル **設定**	1. キャンセル設定地点を走行しGPS警報中にOBISスイッチを押します。 2. キャンセル登録した場合及び、キャンセル地点走行時は、ミュートランプが点灯し、警報音が消音します。 ※予め登録してあるオービスポイントと、任意で追加したオービスポイントで設定ができます。
オービス警報キャンセル **解除**	1. キャンセル地点を走行しミュートランプが点灯中、OBISスイッチを押します。 2. ミュートランプが消灯し、警報音が鳴ります。

Nシステムポイント追加・削除／Nシステム警報キャンセル（Nスイッチ）

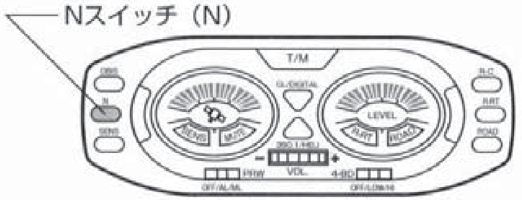
●Nシステムポイントの追加… 本製品に未登録または、新たに設置されたNシステムを任意に追加できます。
※オービス・Nシステムあわせて100件まで登録可能。

●Nシステムポイントの削除… 任意に追加したNシステムポイントを削除します。

●Nシステム警報キャンセル… Nシステム警報音のキャンセル（消音）設定を1件単位で行います。

●Nシステム一括キャンセル… 全Nシステム警報音のキャンセル（消音）設定を行います。

（警）運転者は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。同乗者の方が操作を行ってください。



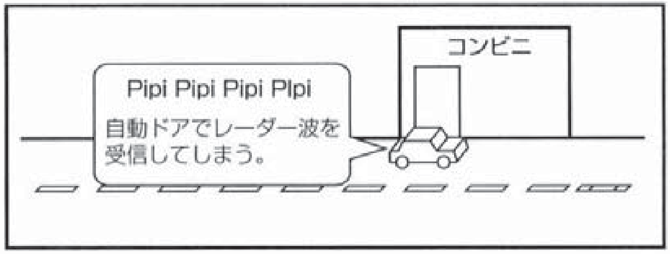
Nシステムポイント **追加**	❶ 登録地点を走行中、GPS警報を行っていない時にNスイッチを押します。 ❷ 2秒後に「Nシステム登録しました」とアナウンス音が出れば登録完了です。
Nシステムポイント **削除**	❶ 登録地点を走行しGPS警報中にNスイッチを押したままにします。 ❷ 「Nシステム消去しました」とアナウンス音が出れば削除完了です。

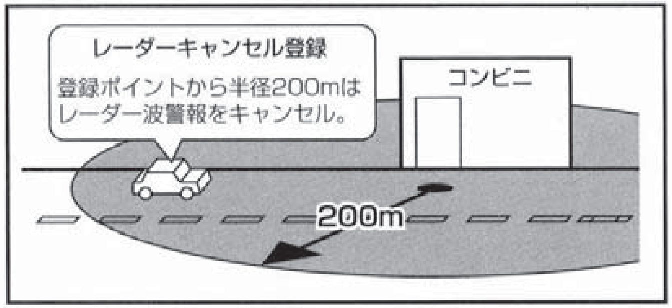
Nシステム警報キャンセル **設定**	❶ キャンセル設定地点を走行しGPS警報中にNスイッチを押します。 ❷ キャンセル登録した場合及び、キャンセル地点走行時は、ミュートランプが点灯し、警報音が消音します。 ※予め登録してあるNシステムポイントと、任意で追加したNシステムポイントで設定ができます。
Nシステム警報キャンセル **解除**	❶ キャンセル地点を走行しミュートランプが点灯中、Nスイッチを押します。 ❷ ミュートランプが消灯し、警報音が鳴ります。

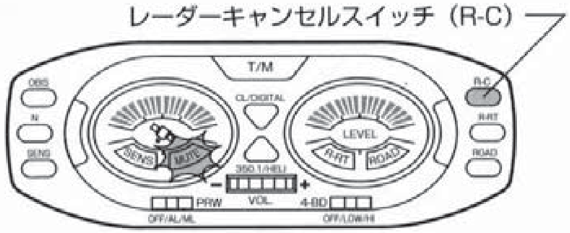
Nシステム警報一括キャンセル **設定**	❶ 本製品を電源オフにします。 ❷ Nスイッチを押したままの状態で、電源スイッチをオンにします。 ❸ 「ピッ」とアラーム音が鳴り、全てのNシステム警報をキャンセル（消音）します。

レーダーキャンセル機能（R-Cスイッチ）

●自動ドア等、レーダー波を受信してしまう場所を登録すれば、約半径200m内のレーダー警報をキャンセル（消音）します。（登録件数50件）



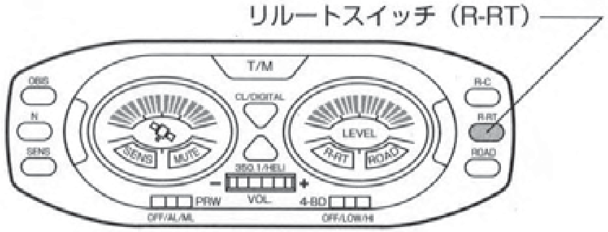




レーダーキャンセル **登録**	❶ レーダー警報時、R-Cスイッチを押します。 ❷ 2秒後に「キャンセル登録しました」とアナウンス音がでれば登録完了です。 ❸ レーダーキャンセル登録位置を走行した場合、ミュートランプが点灯し警報音が消音します。
レーダーキャンセル **削除**	❶ レーダーキャンセル登録地点を走行中、ミュートランプが点灯中の位置で、R-Cスイッチを押したままにします。 ❷ 「キャンセル消去しました」とアナウンス音がでれば削除完了です。

リルート機能（R-RTスイッチ）

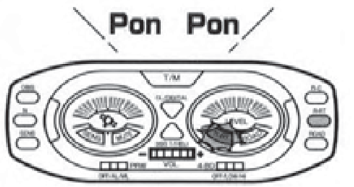
●走行時、リルートスイッチを押すことで現在位置をリルートポイントを登録し、再度通過する時にチャイムでお知らせします。（登録件数50件）
始めて通る道での交差点・分岐路等をリルートポイントとして登録すれば帰り道、登録したポイントの半径50m内で、チャイム音とランプでお知らせします。



リルートポイント **登録**	❶ 登録地点を走行中、R-RTスイッチを1押します。 ❷「リルート登録しました」とアナウンス音がでれば登録完了です。
リルートポイント **1件削除**	❶ リルートポイントお知らせ中、R-RTスイッチを押し続けます。 ❷「リルート消去しました」とアナウンス音がでれば削除完了です。
リルートポイント **全件削除**	❶ R-RTスイッチを押したまま、電源スイッチをOFF→ONにします。 ❷「リルート消去しました」とアナウンス音がでれば削除完了です。

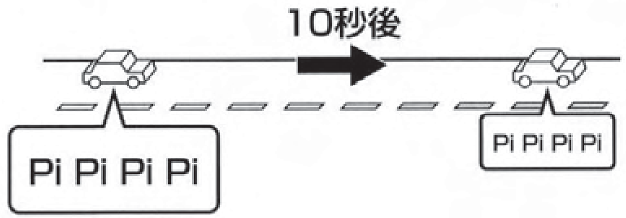
●リルートポイント通過のお知らせ
登録済みリルートポイントを通過した場合、下記の様にチャイム音とランプでお知らせします。

チャイム音	ポーン　ポーン
リルートランプ	点滅



オートボリュームダウン機能

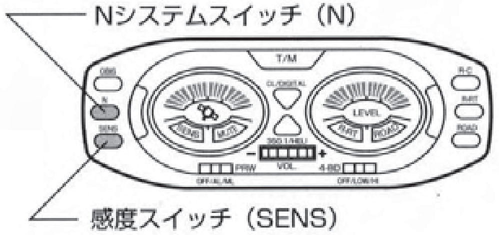
●レーダー波を受信してから（警報開始から）約10秒後に自動で警報音量を減音します。



データーリセット

●全ての登録、設定を行ったデーターをリセット（初期化）し、商品出荷時の状態に戻します。

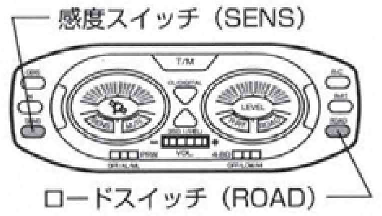
警・データーリセットを行うと、オービスポイント、Nシステムポイント、レーダーキャンセルポイント等の登録データーは全て消去します。また、消去したデーターの復元はできません。
注・商品出荷時または弊社にてデーター更新を行った際、予め登録してあるオービスポイント、Nシステムポイントのデーターは消去できません。
・登録データーが複数ある場合、リセットするのに多少の時間がかかります。



❶ 本製品を電源オフ状態にします。
❷ Nスイッチ、SENSスイッチの2つを同時に押したままの状態で、電源オンします。
❸ 数秒後に「ピッ」とアラーム音が鳴りデーターリセットが完了します。

ディスプレーモード（販売店向け機能）

●本製品の一連の動きをデモンストレーションします。
本製品をディスプレーとして展示する場合等に設定を行って下さい。

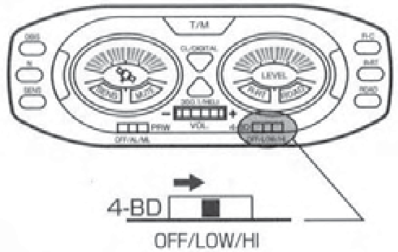


❶ 操作部配線ハーネス、ACC線（赤＋）とアース線（黒－）にDC12V電源を接続します。
※GPSアンテナ、受信部は使用しません。
❷ 本製品を電源オフ状態にします。
❸ SENSスイッチ、ROADスイッチの2つを同時に押したままで押したままの状態で、電源をオンします。
※同じ操作を行うと、解除します。

機能と操作方法

4バンド受信機能（カーロケ／デジタル／350.1／ヘリテレ）

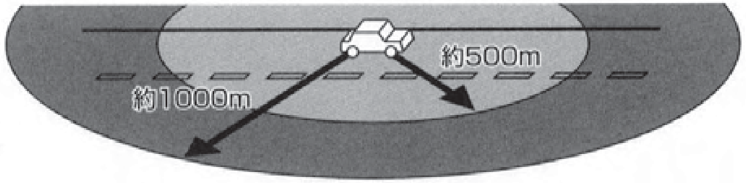
●本製品は、カーロケーターシステム受信、デジタル無線受信、350.1MHz受信、ヘリテレ無線受信の機能設定を4バンドスイッチで設定します。



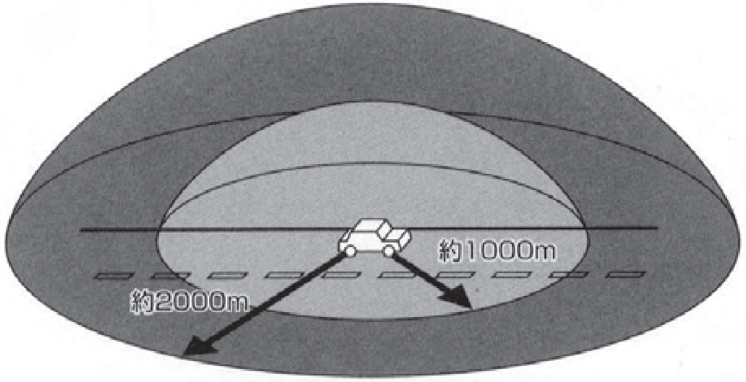
設定	受信感度
LOW	カーロケ／350.1／デジタル（約500m） ヘリテレ無線（約1000m）
HI	カーロケ／350.1／デジタル（約1000m） ヘリテレ無線（約2000m）

❶ 4-BDスイッチを上記表を参照して適切な範囲を設定してください。

カーロケ／デジタル／350.1受信距離



ヘリテレ無線受信距離

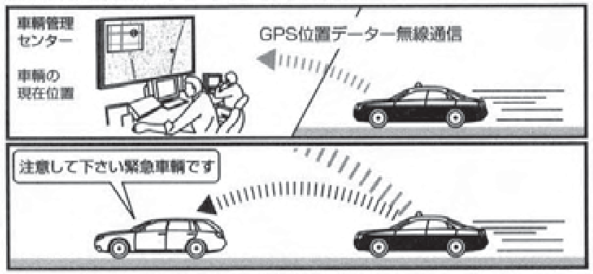


注・カーロケ／デジタル無線／350.1MHz／ヘリテレ無線の受信感度（距離）は直線見通し距離で、間に障害物が無い状態での受信距離目安です。
・使用状況、走行状態、製品取付け位置、周囲の環境（電波状況）によって受信感度（距離）が短くなる場合があります。

機能と操作方法

カーロケーターシステム受信方法

●カーロケーターシステムとは…
「無線自動車同体表示システム」といい、緊急車輌に装備されたGPS受信機より算出した位置データーを無線で定期的（間欠）に各本部の車輌管理センターへ送信するシステムです。本製品は緊急車輌からの電波を受信し、音声で警報を行い緊急車輌の走行を妨げないよう安全な回避を促します。

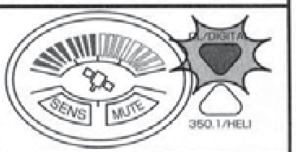
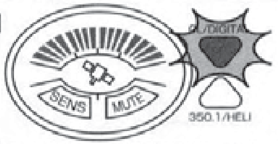


現在、緊急車輌の多くはGPSより算出した位置データーを無線で定期的（間欠）に各本部に送信するカー・ロケーター・システムを装備しています。

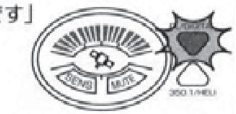
本製品は各本部へ送信している電波を受信し、音声で警報を行い、緊急車輌の走行を妨げないよう安全な回避を促します。

（注）・一部地域または、一部緊急車輌には、カー・ロケーター・システムが装備されていない為、本製品では受信できない事があります。
・カー・ロケーター・システムは間欠で送信される為、実際の緊急車輌の接近と受信タイミングにズレが生じる事があります。
・緊急車輌は走行状態（緊急走行、通常走行、駐停車）によって、電波の送信時間が変化する為、実際の緊急車輌の接近と受信タイミングにズレが生じる事があります。
・緊急車輌がエンジン停止時は電波の送信を行わない為、本製品での受信はできません。
・送信電波の中継局、受信本部近辺では緊急車輌の接近に関わらず受信する事があります。
・本製品が受信するカーロケーターシステムは、パトカー、覆面パトカーを中心に導入されており白バイ、救急車、消防自動車等には現在導入されておりませんが、将来的には導入する可能性があります。

●カーロケーターシステムを受信した場合、下記の様に警報を行います。

緊急車両の距離	警報音声／警報ランプ
遠い（目安） ※受信感度HIの場合のみ	音声：「ピンポーン　注意してください」 4バンド受信レベル：左側より緑点灯（1～2） カーロケ／デジタルランプ：青　遅い点滅 
近い（目安）	音声：「ピッピッ　ピッピッ　緊急車輌です」 4バンド受信レベル：左側より緑点灯（1～4） カーロケ／デジタルランプ：青　早い点滅 

●カーロケーターシステムの受信から30秒以内に再度受信した場合、発信源が前回より接近していた場合、下記の様に接近警報を行います。

緊急車両の距離	警報音声／警報ランプ
接近（目安）	音声：「ピッピッピッ　緊急車輌です　緊急車輌です」 4バンド受信レベル：受信レベルを緑表示（1～4） カーロケ／デジタルランプ：青　遅い点滅 

（注）・遠近、接近の識別は目安としての表示です。使用状況、走行状態、製品取付け位置、周囲の環境（電波状況）によっては正確な遠近、接近の識別が行えない場合があります。

機能と操作方法

デジタル無線受信方法

●デジタル無線とは…

各警察本部と移動局（緊急車輌等）とが行う無線交信で、159MHz帯~160MHz帯で約53chの電波を受信します。通話内容がコード化（デジタル化）されており通話内容を聞く事はできませんが、音声と、ランプで警報を行い付近を走行する緊急車輌の走行を妨げないよう安全な回避を促します。

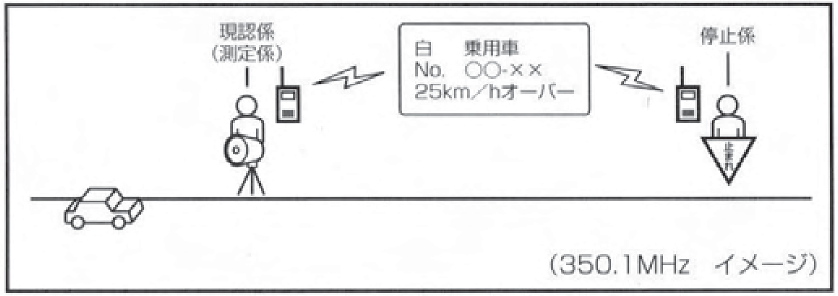
警報音声	警報ランプ	
ピッピッピッピッ 緊急車輌無線を受信しました	●4バンド受信レベル 受信レベルを緑点灯（1~4） ●カーロケ／デジタルランプ 青　早い点滅	

（注）緊急車輌のデジタル無線は常時使用されていません。デジタル無線が使用されている場合（電波送信時）のみ受信可能です。

350.1MHz受信方法

●取締り連絡無線（350.1MHz）とは…

取締り用連絡無線で使用する周波数帯で、速度違反取締りやシートベルト装着義務違反取締り等で使用することがあります。また、通話内容をコード化したデジタル無線方式を使用するケースもあり、音声受信ができない場合もあります。



●取締り連絡無線（350.1MHz）を受信した場合下記の様に警報を行います。

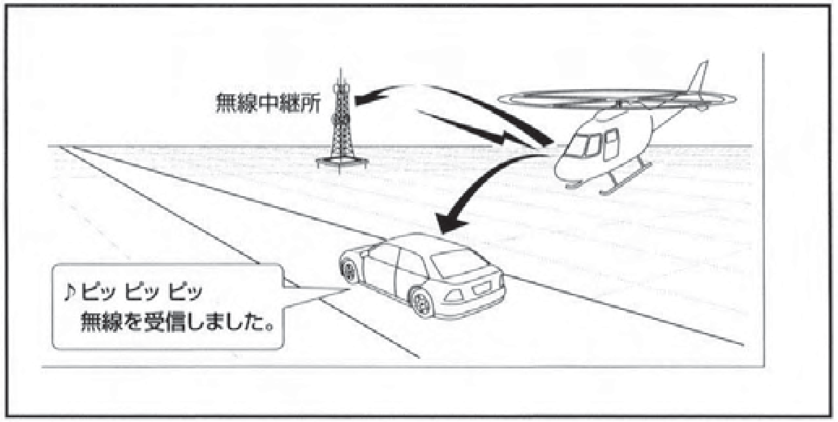
警報音声	警報ランプ	
ピンポーン 無線を受信しました ～　通話内容　～	●4バンド受信レベル 受信レベルを緑点灯（1~4） ●350.1／ヘリテレランプ 赤　早い点滅	

機能と操作方法

ヘリテレ無線受信方法

●ヘリテレ無線とは…

「ヘリコプター画像伝送システム連絡用無線」の略称で警察所属のヘリコプターから全国にある無線中継所に送信される無線通信のことです。主に事件・事故等の情報収集、取締り等の時に上空と地上とで連絡を取るために使われています。本製品は警察所属のヘリコプターから無線中継所間の電波を受信し、音声とアラームで警報を行い、事件・事故等の情報を事前に知ることができ安全な回避を促します。



（注）・一部地域または、一部ヘリコプターにはヘリテレ無線が装備されていない為、本製品では受信できないことがあります。
・ヘリテレ無線はヘリコプターが電波を送信した時のみ受信することができます。
・送信電波の中継所周辺ではヘリコプターの接近に関わらず受信することがあります。

●ヘリテレ無線を受信した場合下記の様に警報を行います。

警報音声	警報ランプ	
ピッピッピッピッ 無線を受信しました ～　通話内容　～	●4バンド受信レベル 受信レベルを緑点灯（1~4） ●350.1／ヘリテレランプ 赤　早い点滅	

警報方法

警報対象とする取締り方法

●本製品は以下の5種類の警報を行います。

- **GPS警報**・・・・・・・本機に登録されたオービス・Nシステムに接近した事をGPS機能にて算出し警報を行います。
- **レーダー警報**・・・・・速度取締り機が発信するレーダー電波を受信し警報を行います。
- **カーロケーター警報**・・緊急車輌（パトカー、覆面パトカー）に搭載されているカーロケーターシステムを受信して警報を行います。
  ※P25参照
- **デジタル無線警報**・・・移動局（緊急車輌等）と警察本部とが行う無線通話を受信して警報を行います。
  ※P26参照
- **350.1警報**・・・・・・取締り現場で使用される事のある取締り用連絡無線を受信して警報を行い、会話内容を受信します。
  ※P26参照
- **ヘリテレ無線警報**・・・警察ヘリコプターの無線を受信して警報を行います。
  ※P27参照

●各取締り機に対して下記表の様に警報を行います。

取締り種類		GPS警報	レーダー警報	カーロケーター警報	無線受信
オービス式取締り	ループコイル（光電管式含む）	●			
	Hシステム	●	●		
	LHシステム	●			
	レーダー	●	●		
有人式取締り	レーダー		●		
	ステルス		●		
	移動オービス（レーダー）		●		
緊急車輌	レーダー搭載パトカー		●		
	カーロケーターシステム搭載パトカー			●	
	カーロケーターシステム搭載覆面パトカー			●	
	デジタル無線搭載パトカー				●
	デジタル無線搭載覆面パトカー				●
その他	ヘリテレ無線				●
	取締り用連絡無線350.1MHz				●
	Nシステム	●			

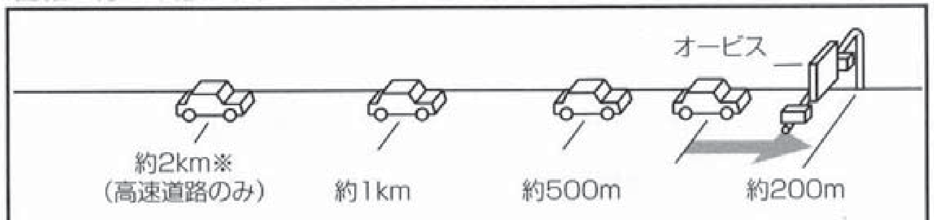
※取締りの種類についてはP32〜P33を参照してください。

警報方法

GPS機能による警報

●オービスポイントに接近した場合、下記の様に警報を行います。
※対向車線上のオービスへの警報は行いません。

警報を行う距離 （注）GPS電波が受信できていない状態では、GPS警報ができません。



約2km※（高速道路のみ）	約1km	約500m	約200m
ボイス警報	ボイス警報	ボイス警報 ※追加登録オービスはボイス警報しません	アラーム／メロディー ※警報時間：約10秒間
アラームランプ（緑おそい点滅）	アラームランプ（橙おそい点滅）	アラームランプ（赤おそい点滅）	アラームランプ（赤点滅）

（注）警報を行う距離は、対象とするオービスからの直線距離です。道路の高低差、カーブの大きさ等によっては実際の走行距離と異なる場合があります。
また、近くの平行する道路等を走行中の時も警報を行う場合があります。

ボイス警報の内容

オービス種類	ボイス内容 ※（　）内の言葉はオービス迄の直線距離、高速・一般道等によって変わります。
ループコイル 光電管	ピンポーン　約（2km・1km・500m）先、（高速道路上に） **ループコイル式**オービスがあります。
LHシステム	ピンポーン　約（2km・1km・500m）先、（高速道路上に） **LHシステム式**オービスがあります。
Hシステム	ピンポーン　約（2km・1km・500m）先、（高速道路上に） **Hシステム式**オービスがあります。
レーダー	ピンポーン　約（2km・1km・500m）先、（高速道路上に） **レーダー式**オービスがあります。
トンネル出口付近	ピンポーン　トンネル出口に○○○○式オービスがあります。 ※○○○○部にオービス種類をアナウンスします。
追加登録オービス	ピンポーン　約（2km・1km）先、（高速道路上に）**ユーザー登録**オービスがあります。

アラーム／メロディー警報の内容

200m地点より	ピッピッピッピッ・・ピッピッピッピッ／♪〜メロディー〜♪

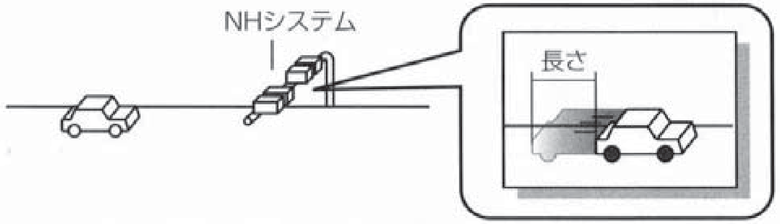
警報方法

GPS機能による警報

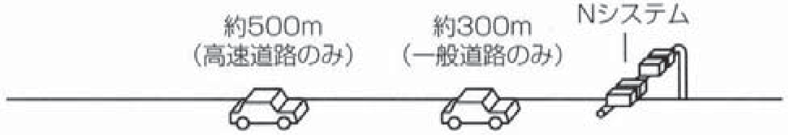
●Nシステム／NHシステムポイントに接近した場合、下記の様に警報を行います。
※対向車線上のNシステム／NHシステムへの警報は行いません。

●NHシステムとは

通過車輌を一定のシャッタースピードで撮影し、写真画像の残像をコンピュータで解析し残像の度合いによって走行速度を割出すシステムです。平成15年現在は速度取締りとしては使用されていませんが、将来的には取締りに使用される可能性があります。



警報を行う距離



警報音	ボイス警報	ボイス警報
アラームランプ	緑点滅	緑点滅

（注）警報を行う距離は、対象とするNシステム／NHシステムからの直線距離です。道路の高低差、カーブの大きさ等によっては実際の走行距離と異なる場合があります。

ボイス警報の内容

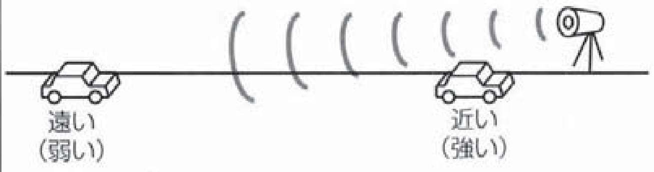
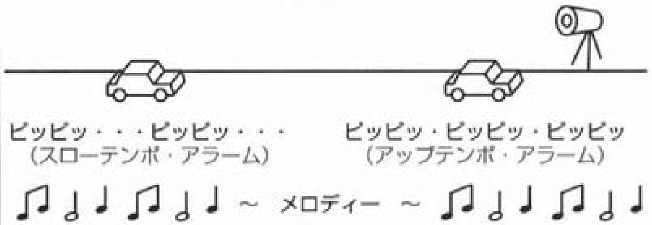
オービス種類	ボイス内容 ※（　）内の言葉は、高速上のNシステム警報時にアナウンスします。
Nシステム NHシステム	ピンポーン　この先（高速道路上に）**Nシステム**があります。
Nシステムポイント 追加箇所	ピンポーン　この先（高速道路上に）**ユーザー登録Nシステム**があります。

（注）GPS電波が受信できていない状態では、GPS警報ができない場合があります。

警報方法

レーダー機能による警報

●レーダー式取締り機に接近した場合、下記の様に警報を行います。

レーダー式取締り機迄の距離（電波の強さ）			
レベルメーター（緑）			レーダー波の受信感度により左から順次点滅　フラッシング
アラーム音	受信感度（ランプ色）	LOW（赤）	アラーム／メロディーが鳴らない
		HI（橙）	アラーム／メロディーが鳴らない（LOW・HI）／アラーム／メロディーが鳴る（S-HI）
		S-HI（緑）	アラーム／メロディーが鳴る
2ステップアラームのタイミング メロディーの場合は、テンポは変わりません			
ステルス波受信			レベルメーターが交互に点滅し、専用アラーム音で警報します。

（注）・レーダー警報中の場合でも、GPS警報を優先して行います。
・レーダー警報中にカーロケ／350.1MHzを受信しても、警報は行いません。

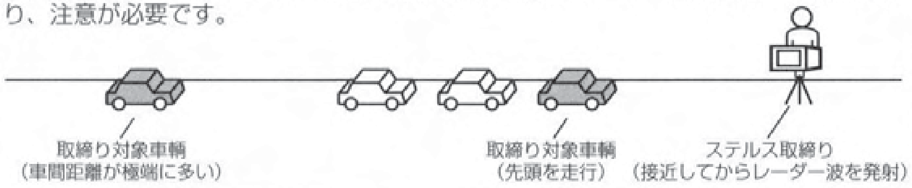
取締りの種類と方法

レーダー式の取締り

●代表的なレーダー式取締りについての説明。

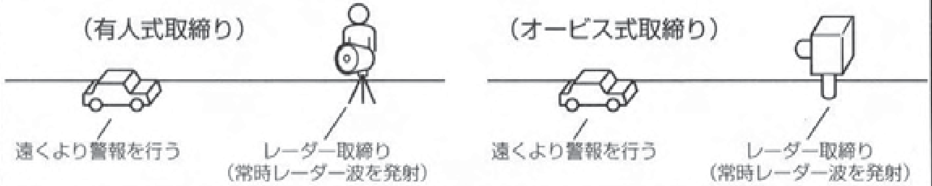
(1) ステルス式取締り方法（有人式取締り）

取締り対象の車が取締り機の近くに接近してから、レーダー波を発射する狙い撃ち的な取締り方式です。走行車輌の先頭や、前方走行車との車間距離が極端に長い場合等に測定されるケースが多く、100m以下の至近距離でレーダー波を受信する場合もあり、注意が必要です。



(2) レーダー式取締り方法（有人式取締り／オービス式取締り）

レーダー波を常時発射し、通過する車輌の速度を測定します。また、オービス式の場合は違反車輌を自動的に写真撮影します。多くの取締り現場に採用しておりレーダー波も500m以上の距離から受信する事ができます。また、オービス式であれば、本製品に位置データが登録してある場合、最長2kmより警報を行います。



(3) 新Hシステム式取締り方法（オービス式取締り）

レーダー波を間欠発射し、通過する車輌の速度を測定し違反車輌の写真撮影を自動で行い警察本部の大型コンピュータへ専用回線で転送されます。レーダー波も500m前後で受信します。また、本製品に位置データが登録してある場合、最長2kmより警報を行います。

(4) 移動オービス式／パトカー車載式

ワンボックス車の後部にレーダー式オービスを搭載し、違反車輌を取締る移動オービスとパトカーの赤色灯を改良して取締り機を搭載したパトカー車載式があります。どちらも出力の強いレーダー波を発射しますので、500m以上の距離から受信する事ができます。（注）移動オービスで、本製品で探知できない光電管式もあります。

取締りの種類と方法

レーダー式以外の取締り

●代表的なレーダー式以外の取締りについての説明。

(1) ループコイル式取締り方法（オービス式取締り）

測定区間の始めと終わりに磁気スイッチ（金属センサー）を路面下、中央分離帯等に埋め込み、通過時間から速度を算出し、違反車輌の写真を撮影します。本製品に位置データが登録してある場合、最長2kmより警報を行います。

(2) LHシステム式取締り方法（オービス式取締り）

速度計測部がループコイル方式で、違反車輌の写真撮影がHシステム方式の取締り機です。従来のレーダー探知機では警報ができませんでしたが。本製品では位置データが登録してある場合、最長2kmより警報を行います。

(3) 光電管式取締方法（有人式取締り／オービス式取締り）

2点間に置かれたセンサーの通過時間から速度を算出し、違反車輌を特定します。オービス式の場合は本製品に位置データが登録してある場合、最長2kmより警報を行います。

(4) 追尾式取締り方法

パトカー・覆面パトカー・白バイ等が、一定の車輌間隔を保った状態で後方を追尾し走行速度を測定し記録します。